

29日 水曜

I サムエル



30:1 ダビデとその部下が三日目にツィクラグに帰ったとき、アマレク人はすでに、ネゲブとツィクラグを襲っていた。彼らはツィクラグを攻撃して、これを火で焼き払い、
30:2 そこにいた女たちを、子どもも大人もみな捕らえ、一人も殺さず、自分たちのところへと連れ去っていた。
30:3 ダビデとその部下が町に着いたとき、なんと、町は火で焼かれていて、彼らの妻も息子も娘も連れ去られていた。
30:4 ダビデも、彼と一緒にいた兵たちも、声をあげて泣き、ついに泣く力もなくなった。
30:5 ダビデの二人の妻、イズレエル人アヒノアムも、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルも連れ去られていた。
30:6 ダビデは大変な苦境に立たされた。兵がみな、自分たちの息子、娘たちのことで心を悩ませ、ダビデを石で打ち殺そうと言い出したからだだった。しかし、ダビデは自分の神、
【主】によって奮い立った。
30:7 ダビデは、アヒメレクの子、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」エブヤタルはエポデをダビデのところに持って来た。
30:8 ダビデは【主】に伺った。「あの略奪隊を追うべきでしょうか。追いつけるでしょうか。」すると、お答えになった。「追え。必ず追いつくことができる。必ず救い出すことができる。」
30:9 ダビデは六百人の部下とともに出て行き、ベソル川まで来た。残ることになった者は、そこにとどまった。
30:10 ダビデと四百人の者は追撃を続け、疲

れきってベソル川を渡れなかった二百人の者が、そこにとどまった。

30:11 兵たちは野で一人のエジプト人を見つけ、ダビデのところに連れて来た。彼らは彼にパンをやって、食べさせ、水も飲ませた。

30:12 さらに、ひとかたまりの干しいちじくと、二房の干しぶどうをやると、そのエジプト人はそれを食べて元気を回復した。彼は三日三晩、パンも食べず、水も飲んでいなかったのである。

30:13 ダビデは彼に言った。「おまえはだれのものか。どこから来たのか。」すると答えた。「私はエジプトの若者で、アマレク人の奴隷です。私が三日前に病気になったので、主人は私を置き去りにしたのです。」

30:14 私たちは、クレタ人のネゲブと、ユダに属する地と、カレブのネゲブを襲い、ツィクラグを火で焼き払いました。」

30:15 ダビデは彼に言った。「その略奪隊のところに案内できるか。」彼は言った。

「私を殺さず、主人の手に私を渡さないで、神にかけて私に誓ってください。そうすれば、あの略奪隊のところに案内いたします。」

ガテの王アキシュを頼ってツィケラグに身を寄せていたダビデでしたが、それは神様をないがしろにする人を頼りにしたということでした。そしてその結果が出てしまいました。そこは決して安全なところではなく、結果的には敵に襲われて家族もさらわれてしまったのでした。

ダビデは我に返ったように主の御心を求め、そして主は単純に答えてくださいました。また助け手をも与えてくださったのです。

このように主にのみ頼るという決心がなければ、

結局は主の敵にさえ依存してしまうことになる」と聖書は教えています。

私たちは気をつけなければなりません。そして不信仰に気づいたなら、すぐに主の御心を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

